

令和8年度 学校自己評価

中津市立沖代小学校

- 1 学校の教育目標 自ら学び共に学ぶ、豊かな心を持った児童の育成
- 2 育成を目指す資質・能力 問題発見解決力・人間関係・社会形成能力
- 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満

生きて働く知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

学びに向かう力、人間性等の涵養

働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組	
わかるできるを実感する	①算数・国語の単元テスト知識・技能領域の平均点⇒低学年 85、中高学年80以上	学校	基礎・基本の定着(C層に対する支援を明確に)	①授業者は「話し方・聞き方4つの約束」の掲示物を使って、学期始めに学習規律の意識づけをしていく ②「沖代タイム」では、組織的なC層への支援をする	B	・1学期実施率: 96%, 95% ・「聞き方」は定着傾向。 ・実態として複数体制のサポートは課題あり。	【①…変更】必要な時にその都度確認。 【②…継続・留意】実態としてうまく回っていないところを考慮し、C層への支援の仕方を工夫。
	②児童アンケートで「学習の約束を守ることができた」肯定的評価⇒85%以上	家庭	家庭学習の学校との連携	○家族で、毎日の家庭学習の時間を話し合って決め、保護者は、励ましの声かけや簡単な丸付けをする	B	・1学期実施率: 78% ・家庭学習への関わりは高いとは言えない。 ・児童の意識は88.6%だが実態に差。	【継続・留意】学年通信等を通して呼びかけを継続、赤丸・青丸・聞く丸を周知。音読や読書の重要性も知らせる。
	③児童アンケート「授業がわかる」否定的評価⇒10%以下	地域	学習支援への参画	○学校運営協議会学習支援部は、月1回の放課後学習支援を実施する	A	・1学期実施率: 100% ・通常日を変更して実施。解説など内容工夫。	【追加・留意】参加人数が増えてきたが、20人を目指す。
言葉を通して伝え合う力をつける	①算数・国語の単元テスト思考・判断・表現領域の平均点 ⇒低学年85%、中高学年80%以上	学校	学年に応じた学び合いの場面設定と工夫、認め合える関係作り	①授業者は、児童に自分の考えを持たせるために、「ぶらぶらタイム」やペアの時間をもつ ②全学級で週1度の人間関係作りプログラムに取り組む	A	・1学期実施率: 95%, 100% ・ペアやグループ活動を実施。 ・にこにこタイムを楽しみにしている姿あり。	【①…変更】2学期は、自分の考えを言葉を通して伝える力を付けていくようペアやグループ活動を仕組む。 【②…継続・留意】マナーリ化が課題。アドジャントーク以外のプログラム拡充のため資料をロイノート等に残す。
	②児童アンケート「自分の考えをもつことができた」肯定的評価⇒80%以上	家庭	親子のコミュニケーションの推進	○保護者は、週に1回はじっくり(10分以上)子どもの話に耳を傾け、親子の会話を楽しむ	A	・保護者アンケート肯定的回答: 96.0% ・取組指標は概ね妥当。	【継続】読書活動に限らず、他の重点目標とも関連付けながら、家庭での親子の会話を促す取組を充実させていく。
	③児童アンケート「友達の意見や考えを聞いて自分の学習に役立てることができた」否定的評価 ⇒10%以下	地域	挨拶プラスワンの取組を行う	○学校運営協議会の生活・安全部会は、月1回のあいさつ運動を引き続き実施するため、関係者への周知活動をする	A	・1学期実施率: 100% ・HPIに「あいさつプラスワン」の記事を載せ、スマイルマンデー周知や挨拶啓発を実施。	【継続】月1回の挨拶運動やHPIによる啓発は概ね妥当。今後は「挨拶+1」の具体的実践を学校・家庭・地域で共有。
主体的に・協働的に取り組み、より良い生活をつくろうとする	①児童アンケート「学校生活の振り返りを行い、クラスで決めためあてを意識して行動できたか」肯定的評価⇒85%以上	学校	自治的な児童会活動	○担任は、月めあての掲示と毎日の振り返り用紙を活用し、児童と一緒にめあてに取り組む場を設定する	B	・1学期実施率: 100% ・朝の会でめあて確認、帰りの会で振り返り実施。 ・運営委員会が振り返りカードにメッセージ。	【継続・留意】日々の振り返りが簡略化しているので、取り組みを改善させていくような場を担任が設定。児童会が回収・評価。
		家庭	家族の一員としての自覚	○子どもは家庭で決まった役割を担い、保護者は子どもへ「ありがとう」「助かるよ」等の声掛けをする	A	・保護者アンケート肯定的回答: 91.3% ・取組指標は概ね妥当。	【継続】今後各学校だよりや懇談会、HPを活用し、子どもの役割や頑張りを認め、言葉で伝える大切さを啓発。
		地域	学校・地域行事への積極的参加	○保護者と地域の方々は、学校と連携し学校行事に参加する	A	・保護者アンケート肯定的回答: 93.7% ・公民館と協力し地域人材を活用できている。	【継続】今後も地域人材の活用を進め、行事予定の早期周知や情報発信を充実させ、参加しやすい環境づくりを進める。
時間の創出	①出勤時間を前年比5%削減	学校	教育の質の向上のための業務の効率化	○行事や会議の精選とICTの活用により、業務効率化を図るとともに、ミニ研修を推進し、指導力向上と時間創出を同時に実現する	A	・1学期実施率: 100% ・時間外在校等は約1.79時間(5.7%)減少。 ・生成AI活用率は73%、ミニ研修を計3回実施。	【継続】業務改善効果が見られた。ストレスチェックは年2回であり測定しにくいため効果測定に工夫。生成AI活用推進。
	②【共通項目】ストレスチェックの健康リスク(量・コントロール)の値を100以下	家庭	働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	○学校運営協議会での熟議を通じ、学校・家庭・地域の共育体制を確立し、働き方改革や教育活動の充実を両立させる	B	・1学期実施率: 91% ・時間外削減等の取組理解とサポート。 ・欠席連絡のすぐる活用のさらなる推進	【継続】4～7月の時間外削減成果などを共有し、学校・家庭・地域の共育体制による業務の共通理解とサポートを強固にする。
	③【追加】生成AIを活用する教職員の割合80%以上	地域	働き方改革における学校業務への参画	○学校運営協議会等を通じた業務見直しの熟議と協力	A	・1学期実施率: 100% ・公民館連携Newチャチャっとの実施。	【継続】熟議を引き続き行い、行事効率化や地域ボランティアの参画拡大による教員の負担軽減を促進する。